

消費者動向調査 No.104

テーマ「夏のボーナス使いみち調査」

調査時期 平成 21 年 4 月

調査対象 福岡県内のサラリーマン家庭の主婦 500 人
(うち回答者 490 人、回答率 98.0%)

回答者区分

A.年代

	%
20代	5.7
30代	21.9
40代	36.9
50代	23.7
60代	11.8

B.あなたのご家庭で

ボーナスがあるのは

	%
夫だけ	51.9
妻だけ	10.1
両方	38.0

西日本シティ銀行

当調査は情報提供を目的として作成されたものであり、その正確性・確実性を保証するものではありません。

[調査結果本文]

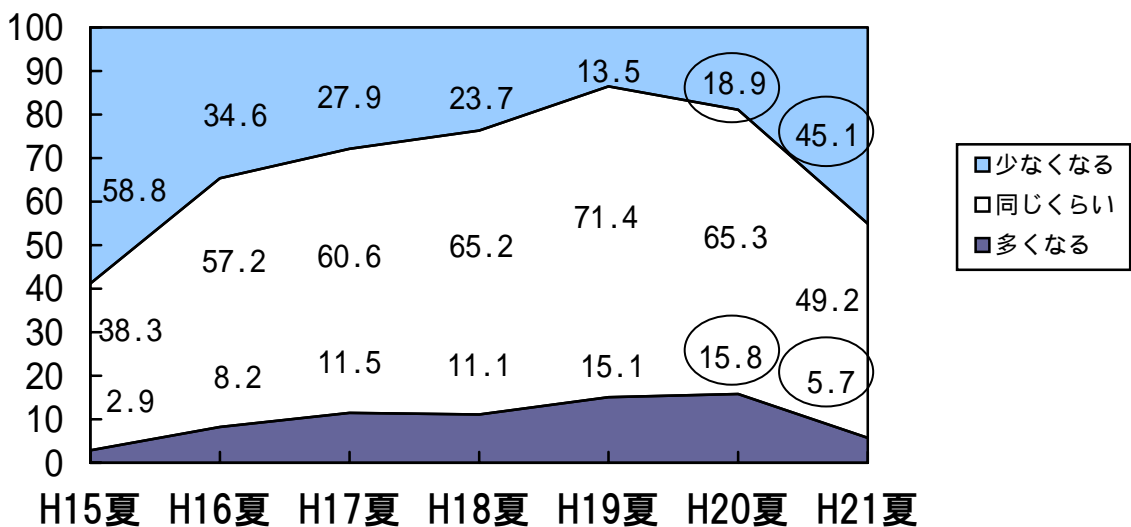
内閣府発表の4月の月例経済報告によると、「景気は、急速な悪化が続いており、厳しい状況にある。」と示しています。昨年秋以降の世界的な景気低迷の影響から、企業の収益環境は厳しい状況が続いているようです。また企業業績の悪化の影響から、個人消費も減少傾向にあるようです。

このような環境の中、消費者はこの夏のボーナス受給額をどのように予想し、どのように消費しようと考えているのでしょうか。また、夏のボーナスの使いみちについて、これまでと違った傾向は表れつつあるのでしょうか。ボーナス受給を間近にひかえ、福岡県在住の主婦を対象に夏のボーナスについての消費動向をたずねました。

今年の夏のボーナス、昨年の夏と比較して「少なくなる」が 26.2 ポイント増加。「多くなる」は 10.1 ポイント減少。

今夏のボーナスが昨年より「少なくなる」と予想する割合が 26.2 ポイント増加。「多くなる」は 10.1 ポイント減少。ボーナスが「少なくなる」と予想する割合が大幅に増加、先行きに対する厳しい見方が多いようだ。

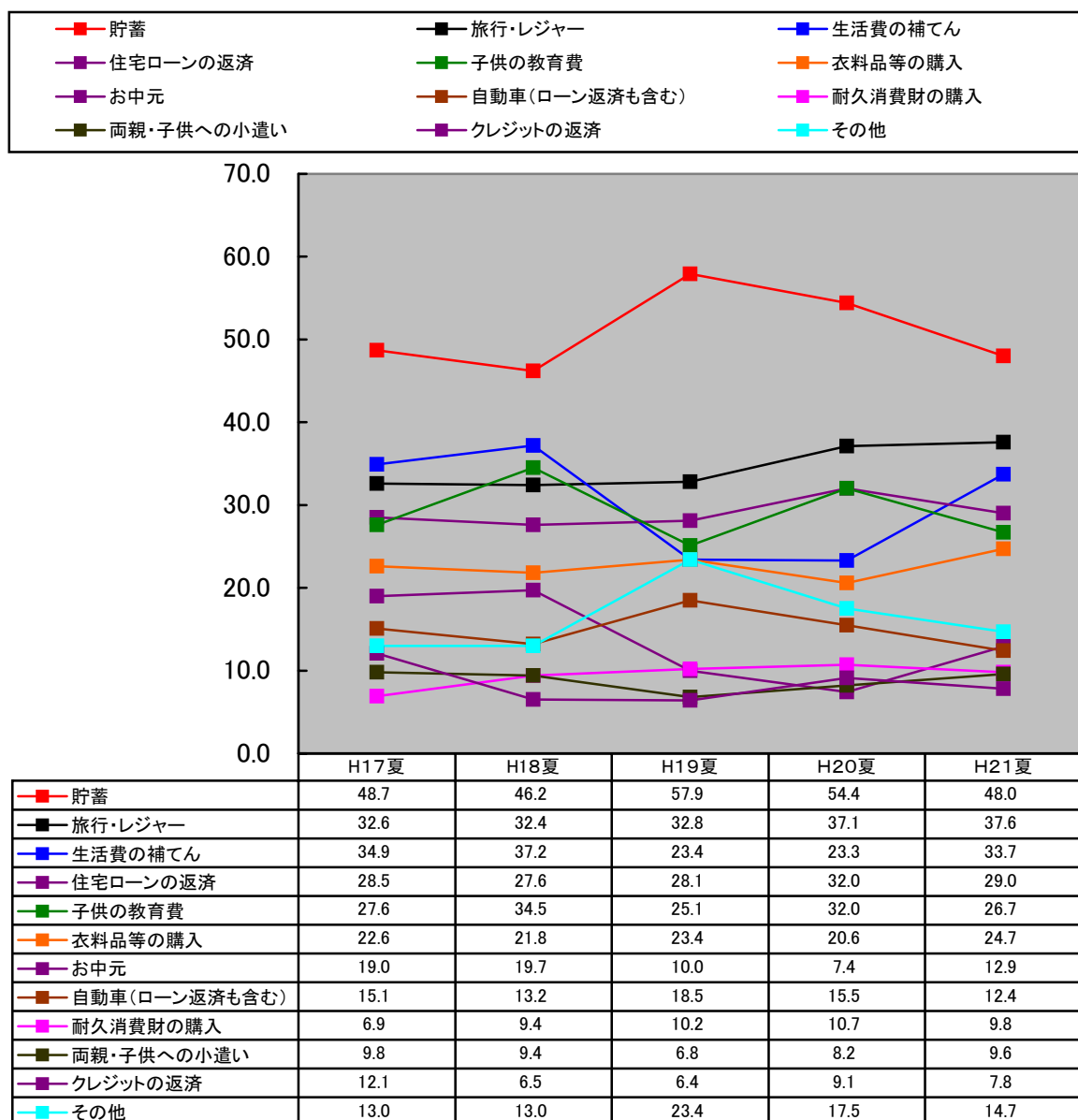
[グラフ1：今夏のボーナスは昨年に比べどうなると予想していますか]
(単位：%)



夏のボーナスの使いみち予定、1位は「貯蓄」で48.0%。2位は「旅行・レジャー」で37.6%。3位は「生活費の補てん」で33.7%。

今夏のボ - ナスの支出予定トップは、「貯蓄」の48.0%。平成5年夏の調査開始以来連続して1位。しかし、直近の3期間その割合は低下傾向で、昨年の夏に比べ6.4ポイント減少している。一方「生活費の補てん」が昨年の5位から3位に順位を上げ10.4ポイント増加の33.7%。ここにも、景気低迷の影響があらわれているようだ。2位は昨年同様「旅行・レジャー」で37.6%。

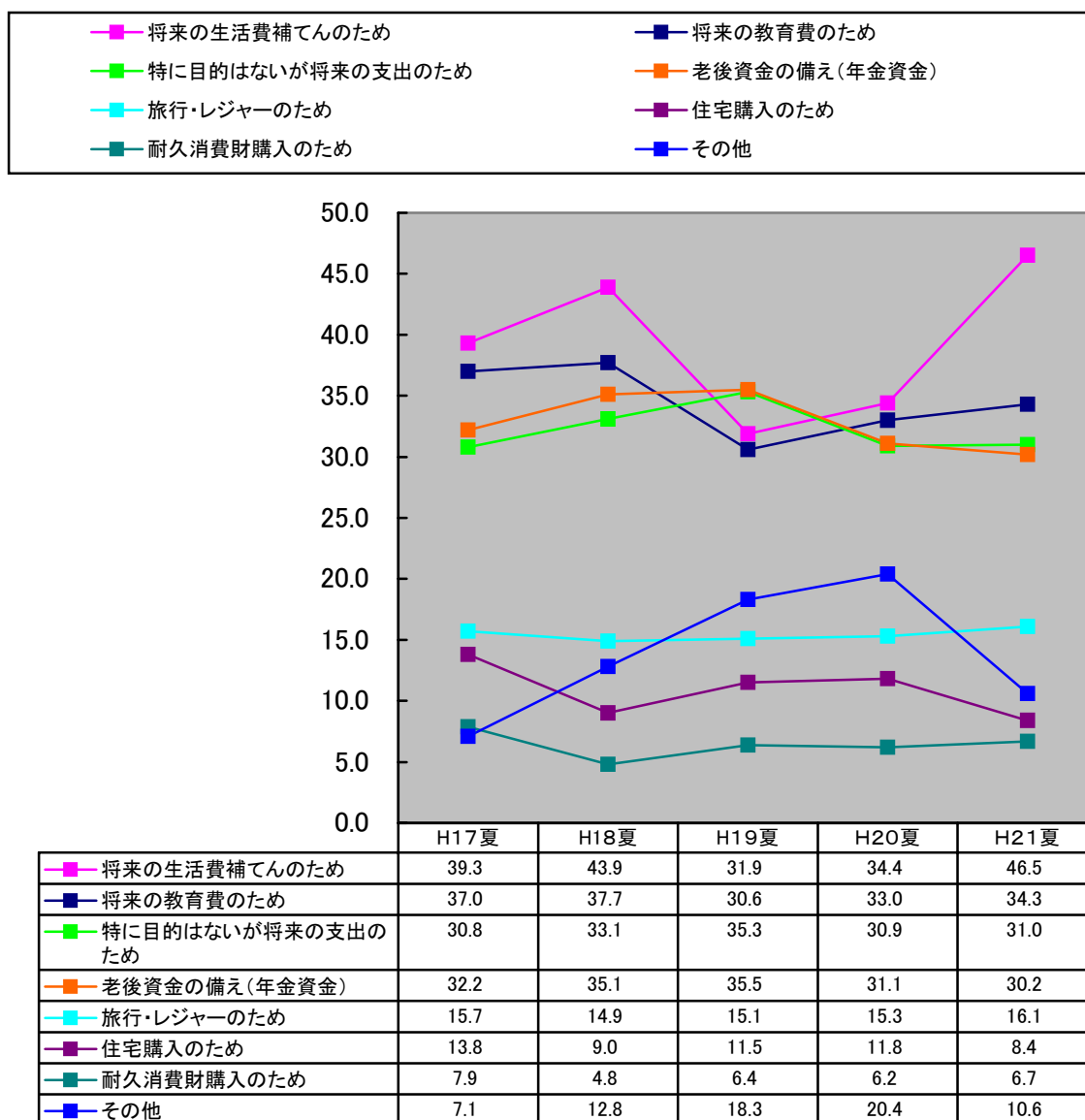
[グラフ2：今夏のボーナスは何に使う予定ですか（3つまで）] （単位：％）



◆ボーナスを貯蓄する目的、1位は「将来の生活費補てんのため」が46.5%。2位は「将来の教育費のため」が34.3%。

今夏のボーナスを貯蓄する目的のトップは「将来の生活費補てんのため」が46.5%で、昨年の夏に比べ12.1ポイントと大幅に増加する一方、「その他」が昨年より9.8ポイント減少。貯蓄の目的がより明確となり、“将来の不測の事態に備えた生活防衛”などの意識が高まっているようだ。2位は「将来の教育費のため」が微増の34.3%。

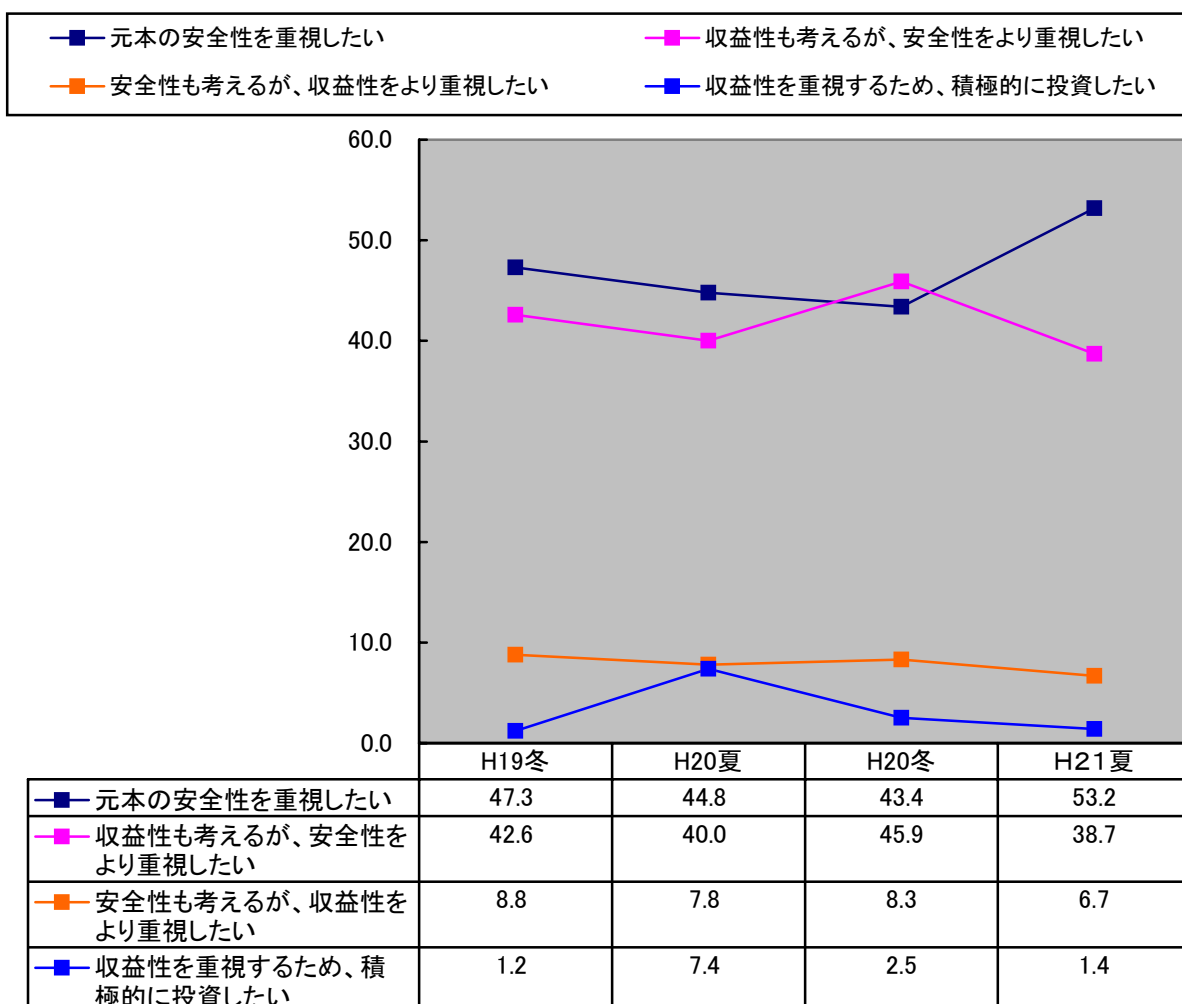
[グラフ3：将来の何のために今夏のボーナスを貯蓄しますか（2つまで）]
（単位：％）



◆ボーナスを貯蓄する場合の考えは、「元本の安全性を重視したい」が53.2%で1位。「収益性も考えるが、安全性をより重視したい」が38.7%で2位。

今夏のボーナスを貯蓄する場合、「収益性も考えるが、安全性をより重視したい」が昨年の冬に比べ7.2ポイント減少し38.7%で2位。代わって「元本の安全性を重視したい」が昨年の冬に比べ9.8ポイント増加し53.2%で再び1位。約9割の人が安全性に重点をおいている点に変わりはないが、貯蓄の考え方にも“守る”意識が高まっているようだ。

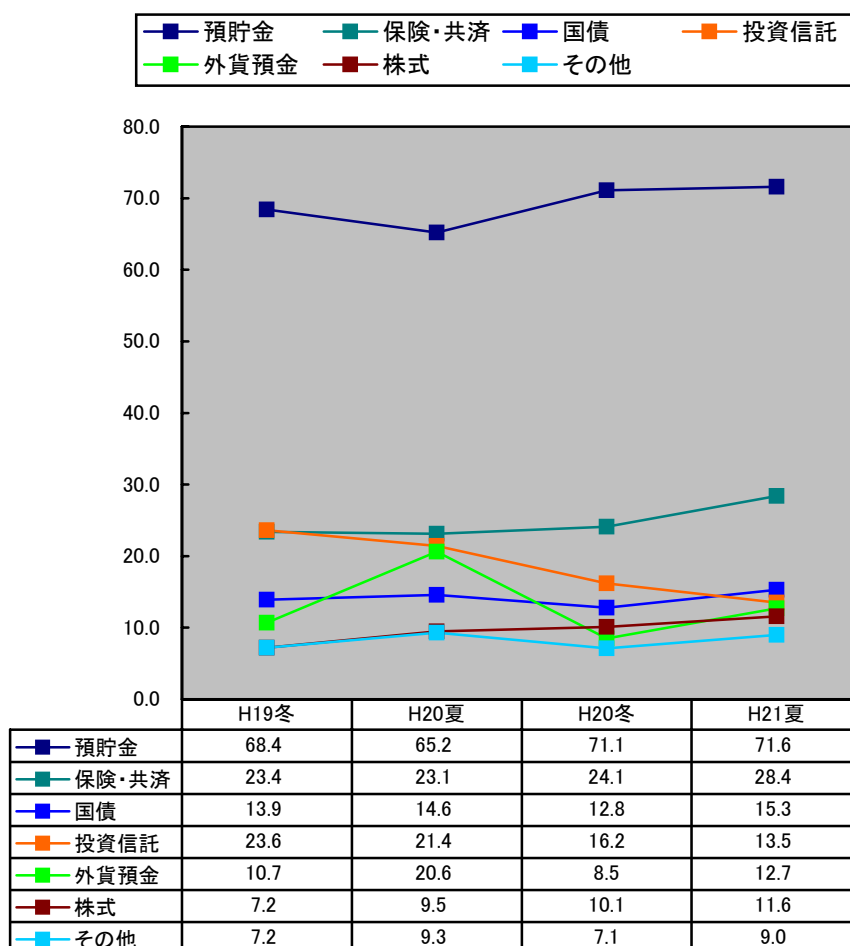
[グラフ4：今夏のボーナスを貯蓄する場合、あなたの考えに近いのは]
(単位：%)



◆関心がある金融商品は71.6%で「預貯金」が1位。2位は「保険・共済」で28.4%。3位は「国債」が今年の冬より順位をひとつ上げ15.3%。

現在関心がある金融商品は「預貯金」が71.6%で1位。2位は28.4%で「保険・共済」。3位は15.3%で「国債」。株式市場の低迷やサブプライムローン問題の影響からか「投資信託」は、平成19年の冬から減少が続き、償還日まで保有すれば元本が保証される「国債」と順位が入れ替わっている。

[グラフ5：どのような金融商品に関心がありますか（いくつでも）]
(単位：%)

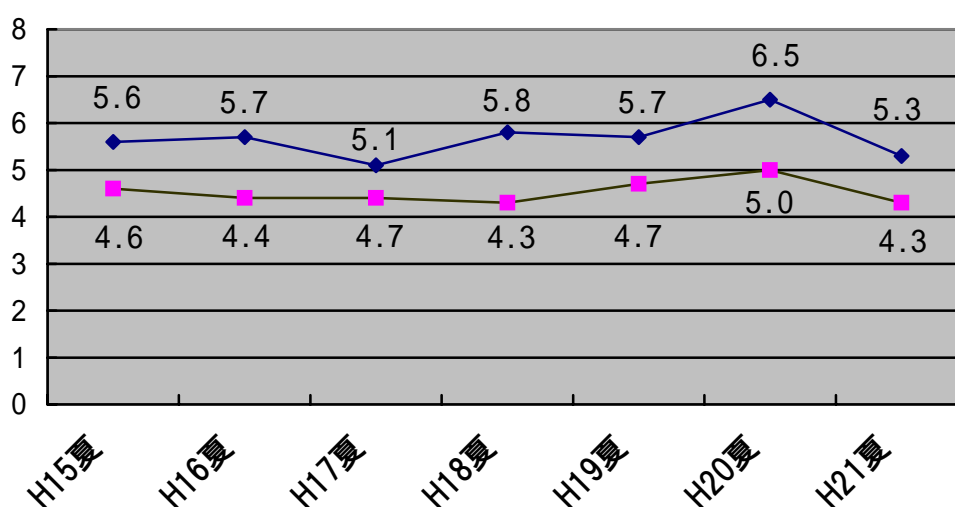


夏のボーナス、自由に使える金額は、昨年の夏に比べて夫は1万2千円ダウン。妻も7千円ダウン。

今夏のボーナス、夫が自由に使える金額の平均は5.3万円(昨年夏比 1.2万円)。妻が自由に使える金額の平均は4.3万円(昨年夏比 0.7万円)。夏のボーナスが昨年より「少なくなる」と予想する割合が大幅に増加したのを受けて、自由に使える金額も減少するようだ。

[グラフ6：自由に使える金額はどれくらいですか]

(単位:万円)



〈ピーク〉
夫 :9.3万円(H9)
妻 :7.9万円(同)

◆ 夫
■ 妻

この調査に関するお問い合わせは
西日本シティ銀行 広報文化部 堺 まで
TEL 092-461-1869